

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築) 2021年SDGs対応版

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追加版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東熱 技術研究開発センター	階数	地上3F
建設地	東京都葛飾区東立石2丁目118,119	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	40 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年6月 予定	評価の実施日	2025年3月18日
敷地面積	3,238 m <sup>2</sup>	作成者	鹿島建設株式会社
建築面積	1,611 m <sup>2</sup>	確認日	2025年3月18日
延床面積	3,199 m <sup>2</sup>	確認者	鹿島建設株式会社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 6.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	47%
③上記+②以外の	47%
④上記+	47%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.8
4(教育)	2.8
5(ジェンダー)	2.3
6(水・衛生)	2.1
7(エネルギー)	2.3
8(経済・雇用)	2.8
9(イノベーション)	2.1
11(都市)	2.6
12(生産・消費)	2.6
13(気候変動)	2.5
15(陸上資源)	1.9
17(実施手段)	2.9

\* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 4.4**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.5

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.1

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 4.4**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.9

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 4.1

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 多様な環境場を持つワークプレイスを計画した、研究開発施設である。 来客のアプローチの容易性、近隣への圧迫感の低減などを考慮した配置・外構計画としている。		-
<b>Q1 室内環境</b> ・上下の温度差が生じにくい床吹き出し方式を採用している。 ・VOCに配慮した建材を使用している。	<b>Q2 サービス性能</b> ・OAフロアや直天、将来対応スペースも見込んだ設備バルコニーによりレイアウト変更や機器の更新性へ配慮している。 ・内装コンセプトから事務室エリアはナチュラルカラー	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・敷地外周部を積極的に緑化することで、良好な景観を周辺地域に提供している。 ・建物高さに変化を持たせることで、周辺建物のスケール感との調和を図っている。
<b>LR1 エネルギー</b> ・高効率な設備機器を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮した計画としている。 ・自然採光や自然換気システムを採用している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水器具を採用することで水資源の保護に配慮している。 ・建材には積極的にリサイクル材を採用している。 ・ノンフロン断熱材を採用している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・周辺道路の渋滞緩和に配慮した計画としている。 ・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版  
東熱 技術研究開発センター

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v2.3.2)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>4.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>4.5</b>
<b>1 音環境</b>				<b>4.6</b>	0.15	-	-		<b>4.6</b>
1.1 室内騒音レベル		騒音レベル:40dB以下		<b>5.0</b>	0.40	-	-		
1.2 遮音				<b>4.6</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能:T-2		5.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		Dr=40		4.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-		
1.3 吸音		床:カーペット、天井:DR		<b>4.0</b>	0.20	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>4.4</b>	0.35	-	-		<b>4.4</b>
2.1 室温制御				<b>3.8</b>	0.50	-	-		
1 室温		-		3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		[外壁]U=0.62W/m <sup>2</sup> K、[窓]U=3.03W/m <sup>2</sup> K、SC=0.33		5.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		-		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		加湿・除湿機能を有し、かつ45%~55%の範囲で計画されている。		<b>5.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式		上下温度差が生じにくい床吹き出し方式を採用している。		5.0	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>4.4</b>	0.25	-	-		<b>4.4</b>
3.1 屋光利用				<b>5.0</b>	0.30	-	-		
1 屋光率		屋光率:3.39%		5.0	0.60	-	-		
2 方位別開口		-		-	-	-	-		
3 屋光利用設備		ハイサイドライトの採用		5.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 屋光制御		-		3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		タスクアンビエント照明方式であり、アンビエント照度は300lx以上、タスク照度は500lx以上を計画している。		<b>5.0</b>	0.15	-	-		
3.4 照明制御		-		<b>5.0</b>	0.25	-	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>5.0</b>	0.25	-	-		<b>5.0</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用しており、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を採用している。		5.0	1.00	-	-		
4.2 換気				<b>5.0</b>	0.30	-	-		
1 換気量		中央管理方式の空調設備を設置しており、換気量は35m <sup>3</sup> /h人以上を満たしている。		5.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		窓が開閉可能であり、自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上となっている。		5.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口に汚染源はなく、各排気口と異なる方位で6m以上離れて設置されている。		5.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		CO <sub>2</sub> 監視が中央で常時行えるシステムとなっており、空気質を適正に維持するための体制が整備されている。		5.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		建物内は完全禁煙となっている。		5.0	0.50	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-		<b>4.1</b>
<b>1 機能性</b>				<b>4.8</b>	0.40	-	-		<b>4.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>4.6</b>	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		1人当たりの執務スペースは13m <sup>2</sup> /人である。		5.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応		Gigabit通信回線の引込を計画している。		5.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画		-		4.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>5.0</b>	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天高:4.2m		5.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画		No1:計画コンセプトを実現するカラースキームとして4つのテーマトーンを選択し、空間に展開している。No2:ワーカーのウェルネス向上のため、事務室エリアはナチュラルカラーを展開している。No3:オープンパントリーには色温度2700Kの照明を採用し、リラックスできる空間を意識した計画としている。No4:パースを作成し、内装計画の事前検証を行っている。		5.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				<b>5.0</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い建材の採用、ほこりの溜まりにくいR形状の中木を採用等		5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		十分なスペースの清掃用具庫・倉庫、ゴミ庫の配置等		5.0	0.50	-	-		

<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	[床]タイルカーペット:20年	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクトにはガルバリウム鋼板のラッキングを施し、長寿命化を図っている。	5.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:硬質塩化ビニルライニング鋼管[B]	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.8</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	吊り配管として地震時の被害を抑える対策を行っている。	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	-	3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	主要な設備機器は耐震クラスAとしている。	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	災害時にはUHF・BS・CSから災害情報を入手できる	4.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:4.8m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.15	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	空調配管は外部もしくは天井スペース内、一部の居室では直天となっているため、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる。	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラックの採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラックの採用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	主要設備は屋上にありクレーンで更新対応を行うため、建物機能を維持することが可能となっている。	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースを確保している。	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		外構緑化指数:40%、敷地周辺の生物環境の立地特性の把握 等	<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		大小のスケール感が共存するエリアであるため、建物高さに変化を持たせることで周囲との調和を図っている。	<b>5.0</b>	0.40	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	建物利用者にアンケートを実施し、計画へフィードバックしている。	<b>5.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>4.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.9</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI=0.55	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		自然採光・自然換気システムが計画されており、エネルギー直接利用量は15MJ/m <sup>2</sup> ・年以上である。	<b>5.0</b>	0.10	-	-	<b>5.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI=0.29	<b>4.8</b>	0.50	-	-	<b>4.8</b>
集合住宅以外の評価			4.8	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>5.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要な設備システムに関して4種類以上のシステム効率の評価が建物全体のエネルギー消費量の目標値が建築主へ提出されており、運用時の定期的な性能検証が計画されている。	5.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水コマに加えて、省水型機器(擬音、節水型便器など)を過半以上に用いている。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.4</b>	0.60	-	-	<b>4.4</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>		機械式継手、キャブリングパイル工法の採用 等	5.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>		-	3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		躯体に電炉鋼を採用している。	5.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		グリーン購入法:ビニル系床材、自治体が指定する特定品目:再生材クラッシュラン、エコマーク:ロックウール化粧吸音板	5.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>		-	3.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.9</b>	0.20	-	-	<b>3.9</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		PRTR法に該当しない建材を4つ採用している。	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム(ODP=0、GWP=3)	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	

<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	4.1
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			5.0	0.33	-	-	5.0
<b>2 地域環境への配慮</b>			4.1	0.33	-	-	4.1
2.1 大気汚染防止	敷地内で燃焼機器を使用していない。		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	既存データを用いて風環境を把握している 等		4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐車場の出入口はIN・OUTを分け車路幅を広く確保することで周辺道路への渋滞緩和に寄与した計画をしている。		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	十分なスペースの廃棄物置場を設け、分別可能な回収容器の設置を計画している。		5.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ガイドラインのチェックリストの過半を満たしている。広告物照明の設置はない。		5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	ガラスの割合を減らした外装デザインとすることで、周辺地域へのグレア発生を抑制している。		4.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_追補版

東熱 技術研究開発センター

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	4.0	2.0	○	○	○	○	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	10.0		○	○		○	○	○	○	○	○	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	10.0		-	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	3.0		-	○	-	○	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	○	-							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	5.0		2.0	1.0	1.0	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		-	1.0	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		-	1.0	1.0	2.0	-	-	-	2.0	2.0				
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	2.0		-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	5.0		-	1.0	4.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	3.0								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	13.0		1.0	2.0	1.0	3.0	2.0	-	-	3.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	5.0		1.0	1.0	1.0	1.0		-	1.0						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標		値	
<b>Q1 室内環境</b>			
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.3	窓の日射熱取得率(η) -	
	U値(W/m2K)	窓システム 3.0	屋根 0.6
	住戸部分 窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -
			床 0.6
3.1.1 昼光率	昼光率	3.4%	
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率	14.5%	
<b>Q2 サービス性能</b>			
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース	13.0㎡/人	病床 .0㎡/床
			シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量	55.0 VA/㎡	
1.2.1 広さ感・景観	天井高	0 m	
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数	0 年	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔	15 年	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔	20 年	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔	15 年	
3.1.1 階高のゆとり	階高	4.8 m	
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率	15.0%	
3.2 荷重のゆとり	床荷重	2900 N/m2	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数	40%	建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率	50%	水平投影面積率 12%
			地表面対策面積率 25%
			舗装面積率 40%

LR1 エネルギー									
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub>	0.55	断熱等性能等級	等級4 相当				
2	自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量	15 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%		
				通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%		
3	設備システムの高効率化	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW		
	非住宅部分	BEI/BEI <sub>m</sub>	再エネ有	0.29	無	0.29	オフサイト再エネ有	-	-
	集合住宅の評価	一次エネ削減率	再エネ有	無					
LR2 資源・マテリアル									
1.2.1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用率	0.0%						
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目	ロイヤルウッド	エコマーク商品	ソーラトン	自治体指定の特定品目等 再生クラッシュヤラン			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	使用比率	0.0%						
3.2.1	消火剤	オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)						
3.2.2	発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3				
3.2.3	冷媒	オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)						
LR3 敷地外環境									
2.2	温熱環境悪化の改善	見付面積比	67%	隣棟間隔指標R <sub>w</sub>	1.49				
		地表面対策面積率	40.0%	屋根面対策面積率	#DIV/0!	外壁面対策面積率	#DIV/0!		
		見付面積S <sub>b</sub>	900㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub>	70.28 m	基準高さH <sub>b</sub>	19.11 m		
		緑地	618㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
				再帰性反射対策面	㎡				